


Summary

原子力に関する世論調査（2024年度）

2025年3月

一般財団法人

 **JAERO** 日本原子力文化財団

【今年度のポイント】

当面の原子力利用について容認する考えは過半数超

原子力の平和利用についての知識の啓発普及を行う 一般財団法人 日本原子力文化財団（理事長：川井吉彦）は、2006年度から継続的に「原子力に関する世論調査」を実施している。18回目となる2024年度は10月に調査を実施し、全国の1200人（15～79歳男女）から回答を得た。

【調査目的】

原子力に対する世論は、事故や災害などの出来事があるごとに大きく変動する傾向がある。そのため、本調査では、全国規模の世論調査を**定点的、経年的**に実施し、**原子力に関する世論の動向や情報の受け手の意識を正確に把握**することを目的として実施している。また、調査結果を基に、さまざまなステークホルダーが活用することができる情報発信方法を検討している。

調査手法

定点調査

- ・調査地域 全国
- ・調査対象者 15～79歳男女個人
- ・サンプリング 1,200人／住宅地図データベースから世帯を抽出し、個人を割当
- ・標本数の配分 200地点（1地点6サンプル）を地域・市郡規模別の各層に比例配分
- ・調査手法 オムニバス調査
訪問留置調査

実査時期

経年変化

- | | |
|--------------|---------------|
| 第1回：2007年1月 | 第10回：2016年10月 |
| 第2回：2007年10月 | 第11回：2017年10月 |
| 第3回：2008年10月 | 第12回：2018年10月 |
| 第4回：2010年9月 | 第13回：2019年10月 |
| 第5回：2011年11月 | 第14回：2020年10月 |
| 第6回：2012年11月 | 第15回：2021年10月 |
| 第7回：2013年12月 | 第16回：2022年10月 |
| 第8回：2014年11月 | 第17回：2023年10月 |
| 第9回：2015年10月 | 第18回：2024年10月 |

**2024年度
18回目**
2006年度から
継続的に実施

【調査結果の公開先】

日本原子力文化財団のホームページで2010～2024年度の報告書データを公開中

財団ホームページ（下記URL）で報告書データを公開中

<https://www.jaero.or.jp/poll/>

詳しくは **WEB** で

世論調査 原子力文化

検索

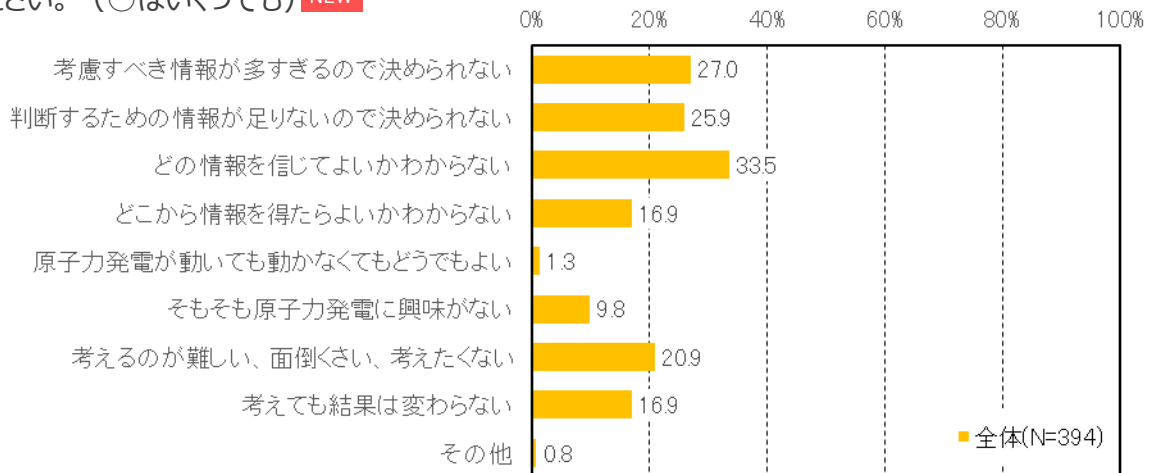


問8-1 今後日本は、原子力発電をどのように利用していけばよいと思いますか。(○は1つだけ)



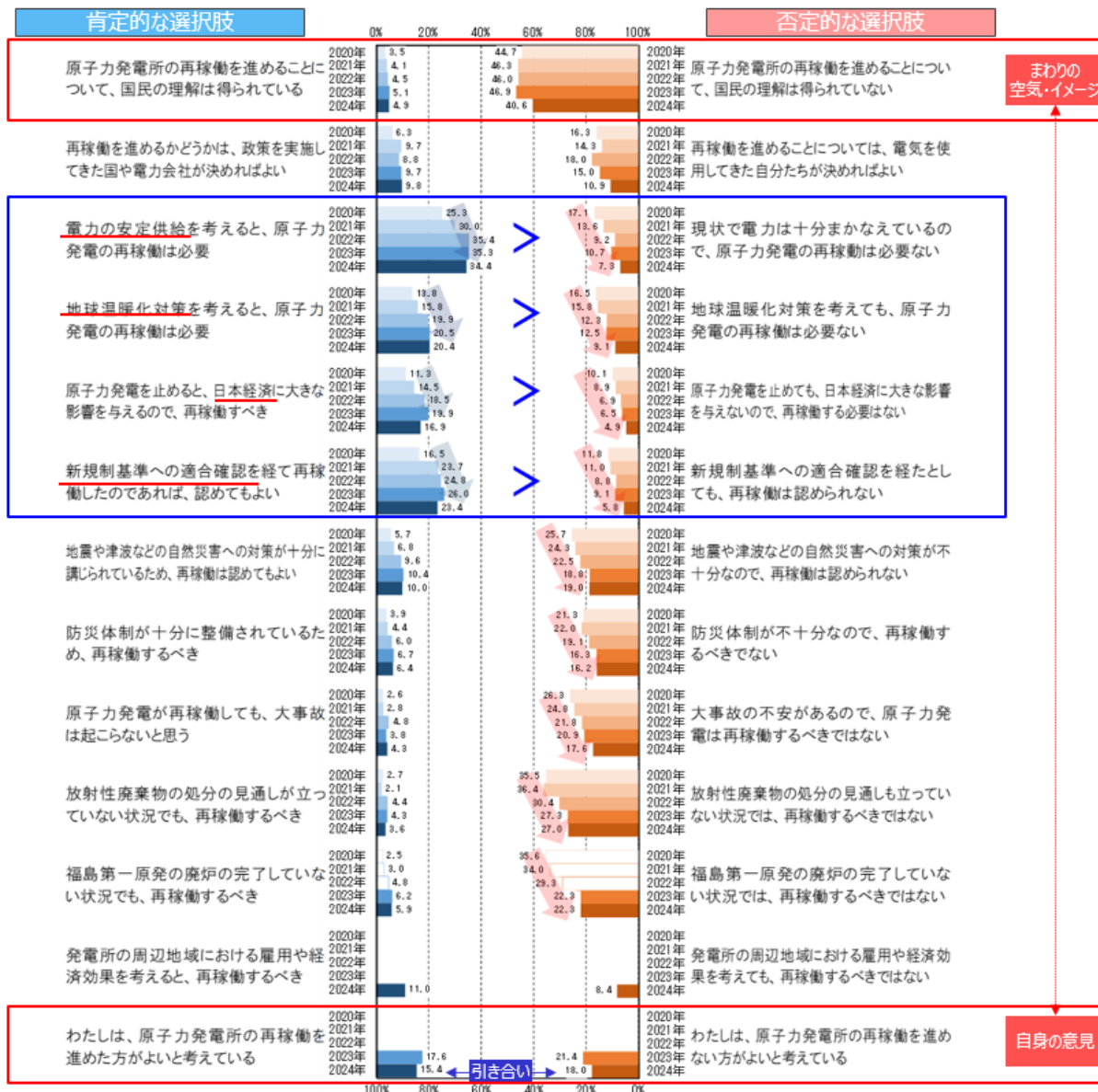
- 当面の原子力利用について容認する考えは過半数超の58.1% (「増加+維持」は18.3%+「しばらく利用するが、徐々に廃止していくべきだ」の39.8%)、「即時廃止」が4.9%、「わからない」が33.1%
- 当面の原子力利用について容認する考えが過半数超であることから
原子力発電は、現状においては利用すべき発電方法と認識されていることが確認できる
- 「わからない」は、増加傾向で過去最大値の33.1%、2014年からは+12.5%
- 2016→2023年度で「即時、廃止」の割合が減少し、2021→2023年度で「増加+維持」の割合が増加しており、2024年度は2023年度の傾向を維持している

問8-2 今後の原子力利用について「わからない」と回答した理由に近いものを、以下の中からいくつかでもお選びください。(○はいくつでも) NEW



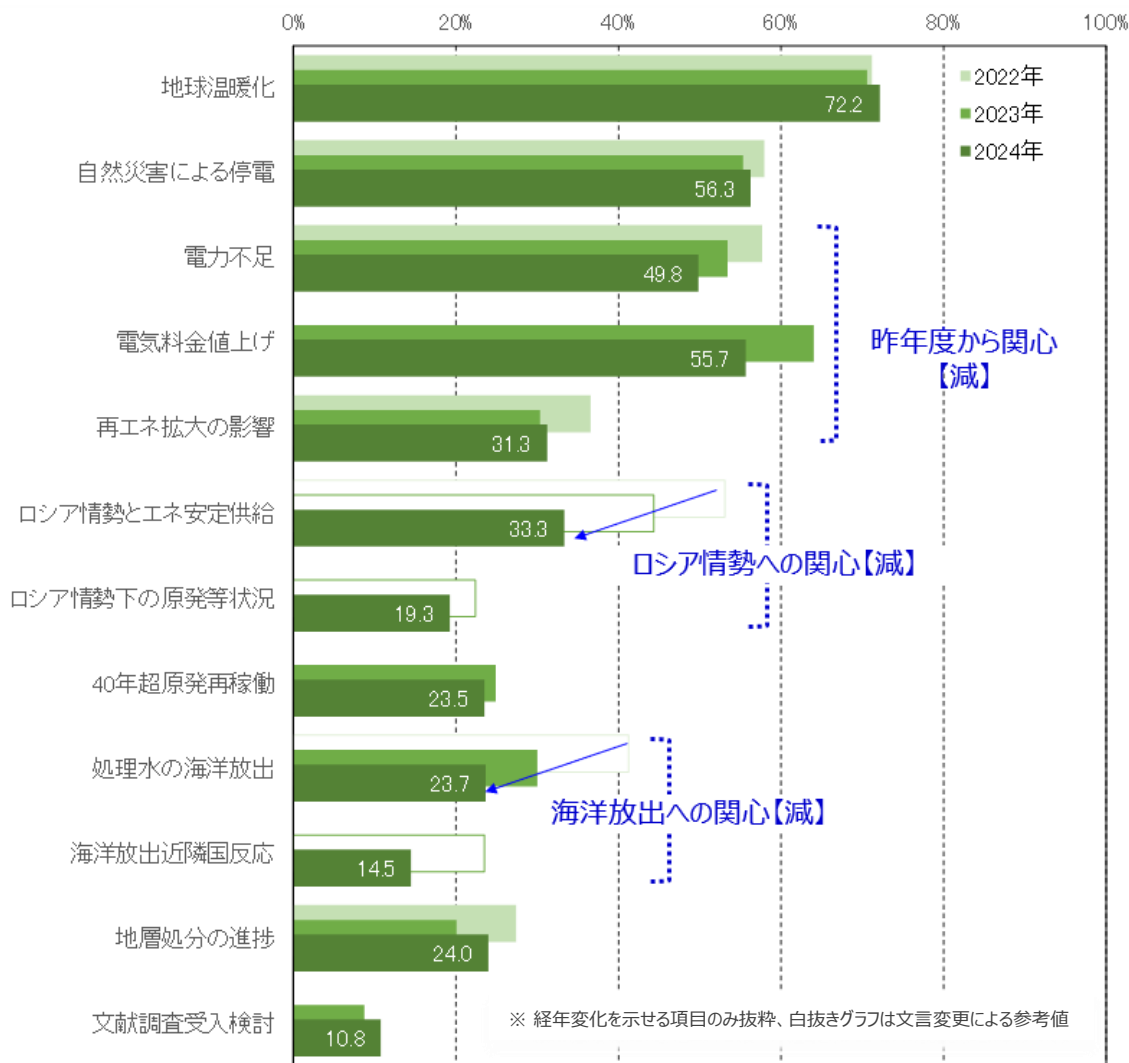
- 最も大きい意見は、「どの情報を信じてよいかわからない」33.5%、次いで、「情報が多すぎるので決められない」27.0%、「情報が足りないので決められない」25.9%、「考えるのが難しい、面倒くさい、考えたくない」20.9%となっている。

問9 原子力規制委員会による新規制基準への適合確認を通過した原子力発電所は、地元自治体の了解を得て、再稼働されることになります。再稼働に関するご意見について、あなたのお考えにあてはまるものがありましたら、すべてお選びください。（○はいくつでも、対象者全員に質問）



- 安定供給や地球温暖化対策、日本経済、新規制基準への適合という観点では、再稼働に肯定的な考えが優勢である一方、再稼働を進めることについて国民の理解は得られていないとする意見が優勢。
- 【赤枠】：国民の理解「まわりの空気・イメージ」を尋ねると、否定的な考えが多いが、「自身の意見」を尋ねると、肯定・否定の考えが“引き合い”の状態となっている。
- 肯定・否定の考えの“対”になるように並べ替えて比較
否定的な考えに集中している項目は受け止める必要がある

問20-1 以下に挙げている最近の原子力やエネルギーのニュースの中で、あなたが「気になる事柄」はどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。（○はいくつでも）



● 「気になる事柄」として回答が集まったのは、これまでと同様、「地球温暖化による気候変動が自然環境や暮らしに与える影響」が72.2%と最も高い。「台風や水害、地震などの自然災害による停電が暮らしに与える影響」が56.3%、「電気料金の値上げが暮らしに与える影響」が55.7%、「電力不足が暮らしに与える影響」が49.8%と続く。

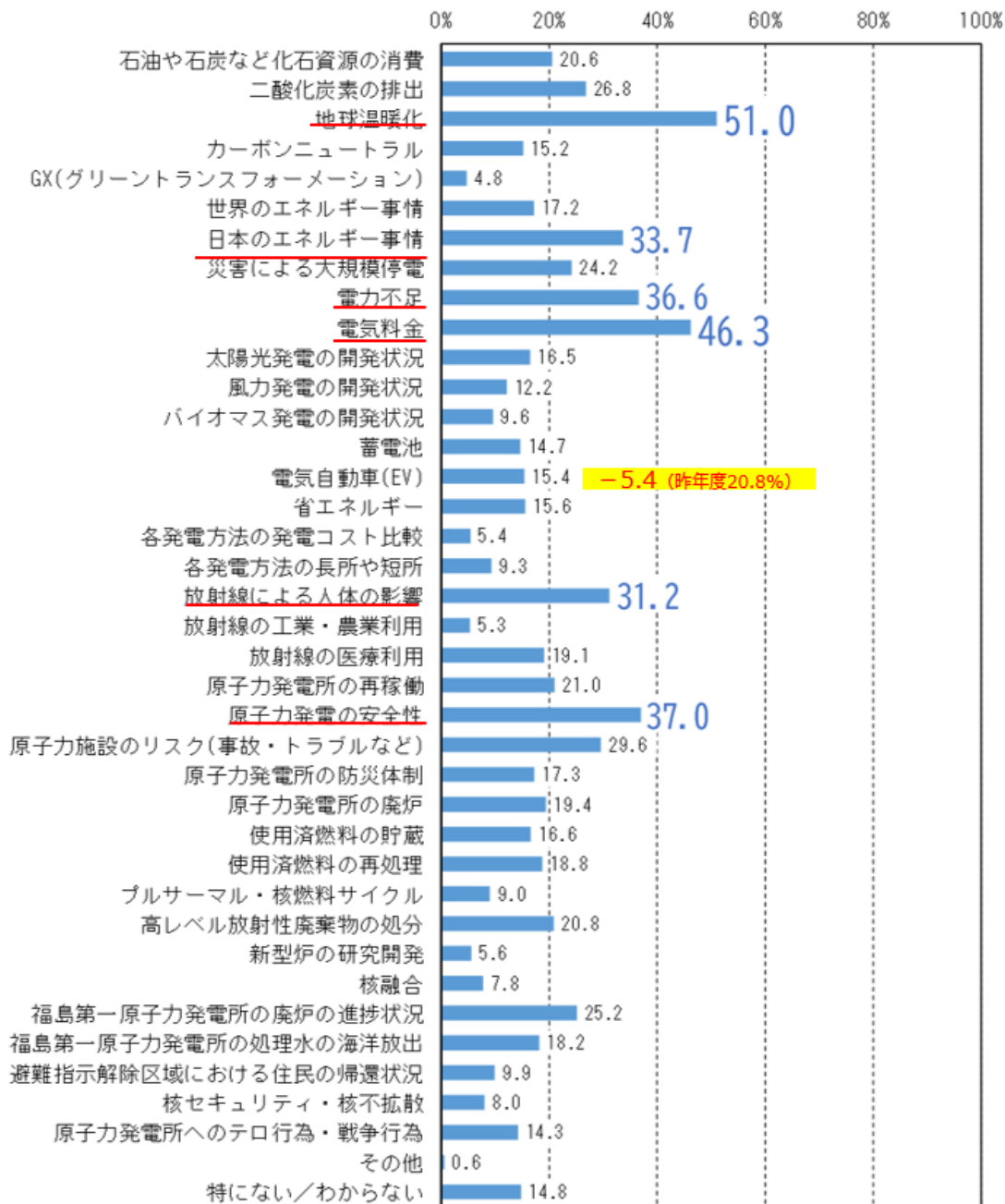
→暮らしに影響を与える身近なニュースに対する関心は経年で見ると関心が低下している傾向にある

● 2023→2024年度

「ロシアのウクライナ侵攻が日本のエネルギー情勢に与える影響」が33.3% (-11.0) で、「処理水の海洋放出の進捗状況」が23.7% (-6.3)、「福島第一原子力発電所の処理水の海洋放出に対する近隣諸国の輸入停止措置の状況」が14.5% (-9.0) で、昨年度より関心が低下傾向。

→ウクライナ侵略が与える影響、処理水の海洋放出については関心の落ち着きが見られる

問3 原子力やエネルギー、放射線の分野において、あなたが関心のあることはどれですか。（○はいくつでも）



● 「地球温暖化」(51.0%)、「電気料金」(46.3%)、「原子力発電の安全性」(37.0%)、「電力不足」(36.6%)、「日本のエネルギー事情」(35.8%)、「放射線による人体への影響」(31.2%)が上位項目

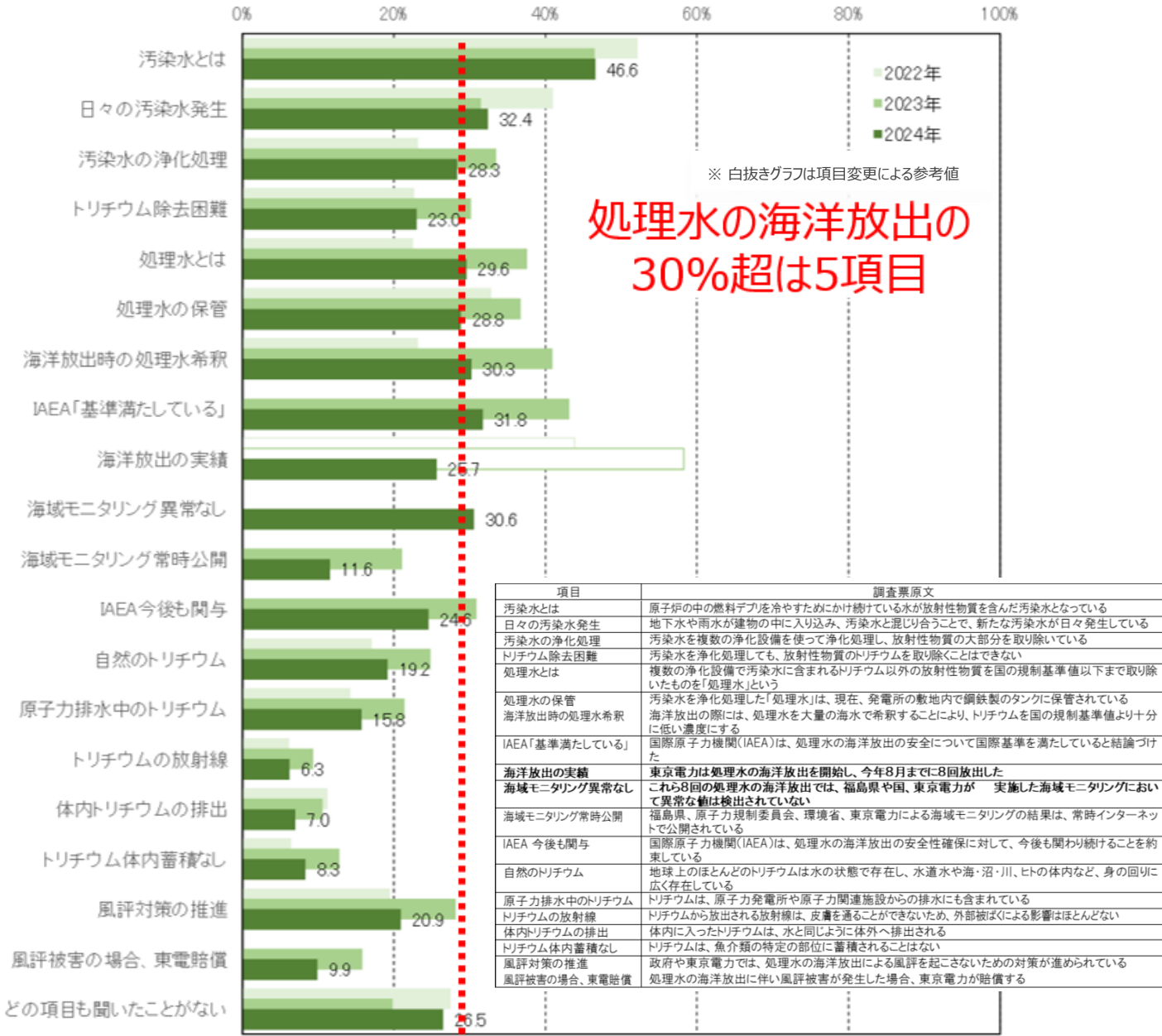
● 2023→2024年度

全体的な傾向：全37項目のうち、2023年度から5ポイントの変動があった項目は1つのみ

→全体的に関心の落ち着きが見られる

2011年に事故を起こした福島第一原子力発電所では、現在、廃炉作業が進められています。ここでは、その一環として行われる「処理水の海洋放出」についてお聞きします。

問13-1 「処理水の海洋放出」に関する次の事柄についてあなたが「聞いたことがあるもの」はどれですか。（○はいくつでも）



項目	調査票原文
汚染水とは	原子炉の中の燃料デブリを冷やすためにかけ続けている水が放射性物質を含んだ汚染水となっている
日々の汚染水発生	地下水や雨水が建物の中に入り込み、汚染水と混じり合うことで、新たな汚染水が日々発生している
汚染水の浄化処理	汚染水を複数の浄化設備を使って浄化処理し、放射性物質の大部分を取り除いている
トリチウム除去困難	汚染水を浄化処理しても、放射性物質のトリチウムを取り除くことはできない
処理水とは	複数の浄化設備で汚染水に含まれるトリチウム以外の放射性物質を国の規制基準値以下まで取り除いたものを「処理水」という
処理水の保管	汚染水を浄化処理した「処理水」は、現在、発電所の敷地内で鋼鉄製のタンクに保管されている
海洋放出の際の処理水希釈	海洋放出の際には、処理水を大量の海水で希釈することにより、トリチウムを国の規制基準値より十分に低い濃度にする
IAEA「基準満たしている」	国際原子力機関(IAEA)は、処理水の海洋放出の安全について国際基準を満たしていると結論づけた
海洋放出の実績	東京電力は処理水の海洋放出を開始し、今年8月までに8回放出した
海域モニタリング異常なし	これら8回の処理水の海洋放出では、福島県や国、東京電力が実施した海域モニタリングにおいて異常な値は検出されていない
海域モニタリング常時公開	福島県、原子力規制委員会、環境省、東京電力による海域モニタリングの結果は、常時インターネットで公開されている
IAEA 今後も関与	国際原子力機関(IAEA)は、処理水の海洋放出の安全性確保に対して、今後も関わり続けることを約束している
自然のトリチウム	地球上のほとんどのトリチウムは水の状態で存在し、水道水や海・沼・川、ヒトの体内など、身の回りに広く存在している
原子力排水中のトリチウム	トリチウムは、原子力発電所や原子力関連施設からの排水にも含まれている
トリチウムの放射線	トリチウムから放出される放射線は、皮膚を通ることができないため、外部被ばくによる影響はほとんどない
体内トリチウムの排出	体内に入ったトリチウムは、水と同じように体外へ排出される
トリチウム体内蓄積なし	トリチウムは、魚介類の特定の部位に蓄積されることはない
風評対策の推進	政府や東京電力では、処理水の海洋放出による風評を起さないための対策が進められている
風評被害の場合、東電賠償	風評被害の場合、東電賠償 処理水の海洋放出に伴い風評被害が発生した場合、東京電力が賠償する

- 最も選択率が高いのは、「汚染水とは」46.6%がもっとも高く、次いで「日々の汚染水発生」32.4%、「IAEA基準満たしている」31.8%、「海域モニタリング異常なし」30.6%、「海洋放出時の処理水希釈」30.3%、と続く。この5項目が30%超。

- 経年変化
2023年度に比べて認知の程度は全体として減少。

問14 福島第一原子力発電所の汚染水を浄化処理した「処理水」の海洋放出が開始されたことについて、以下のような意見をどのように感じますか。（〇はいくつでも）



※ 図中の数値は2024 年度のもの
 / 2022 年度白抜きグラフは項目文言を調整したもの

処理水の海洋放出に対する考えは前向きな回答を維持
 福島を応援する回答は高ポイントを維持

海洋放出に前向き意見【多】

水産物購入について気にしていない

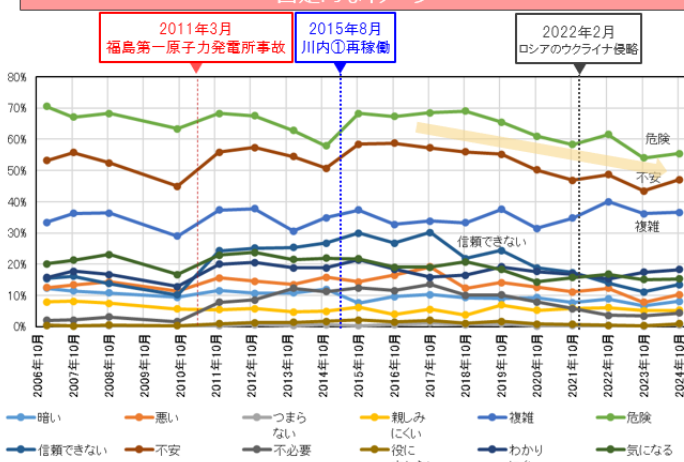
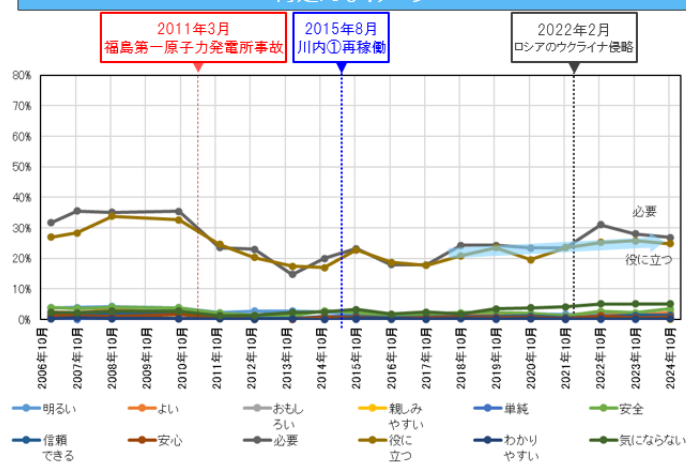
福島を応援

- 最も大きい意見は、「福島周辺漁業応援する」49.5%であり、「国内外への情報発信必要」41.9%、「緊張感持って取り組んでほしい」39.7%、「風評対策強化必要」39.5%、「自分は購入気にしない」37.9%と続く。
- 2023→2024年度
 多くの項目でポイントが減少しており、関心の低下（落ち着いた）を見せていると推測される。また、処理水の海洋放出に対する意見としては、前回と同じく、概ね前向きな回答となっていると言える。

問1 あなたは「原子力」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。(〇はいくつでも)

肯定的なイメージ

否定的なイメージ



- 「必要」(26.8%)、「役に立つ」(24.8%) は2018年度から安定的に推移。
- 2023→2024年度で、「危険」(55.4%)、「不安」(47.1%)で微増しているが、2017年頃からの中期のトレンドでは、減少傾向が続いていると言える。

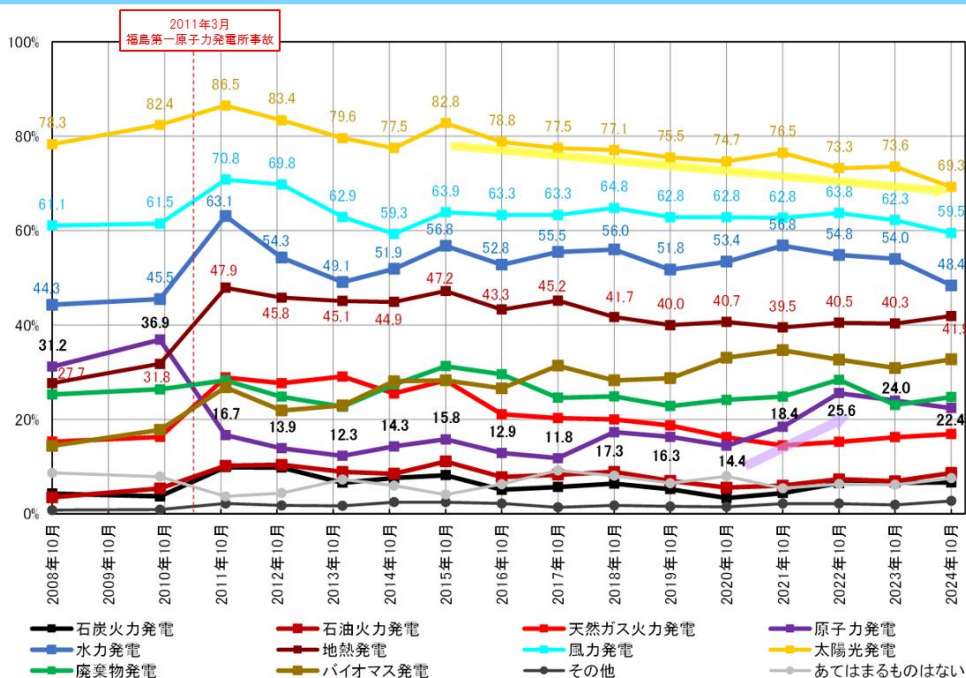
ポイントの変動に影響を与える代表的な出来事・ニュース

2011年3月：東京電力（株）福島第一原子力発電所で事故が発生

2015年8月：九州電力（株）川内原子力発電所1号機が再稼働、新規制基準施行後初めて

2022年2月：ロシアによるウクライナ侵略が開始

2023年8月：ALPS処理水の海洋放出を開始（ALPS処理水の海洋放出を巡る世界情勢）



- 2011年度以降、上位項目に変化なし
- ①太陽光発電
- ②風力発電
- ③水力発電
- ④地熱発電

2020→2022年度
原子力発電利用の
意見が増加
2024年度も
その水準が
維持されている